

主な時期の竪穴建物と出土遺物

■弥生時代中期後葉(時期①)

在地系土器



受口壺



台付甕

凹線文系土器



高坏



台付鉢

西三河の在地系土器（黒色焼成で櫛描文が施される
うけくちつぼ ちゅうしゅうきやく たいつきかめ
受口壺・柱状脚の台付甕）と、西日本から伝わった
おうせんもん たかつき はち
凹線文系の土器（広口壺・高坏・台付鉢など）が出
土。



竪穴建物2183

■弥生時代後期前葉(時期①)

竪穴建物3546



竪穴建物検出状況

- ・竪穴建物の大きさ／長辺 5.69m×短辺 4.25m
- ・火災にあった痕跡あり（焼土・炭化物・焼土塊が建物内から出土）
- ・特徴的な出土遺物／小型高坏



■弥生時代終末期～古墳時代前期前半(時期②)

竪穴建物1152



土器出土状況

- ・竪穴建物の大きさ／長辺 6.71m×短辺 6.54m
- ・竪穴建物跡のくぼみを利用して貝殻や土器を廃棄した貝層あり



■古墳時代中期前半(時期③)

竪穴建物1161



貝層と土器出土状況

- ・竪穴建物跡のくぼみを利用して貝殻や土器を廃棄した貝層あり
- ・特徴的な出土遺物／有段口縁壺・骨角器



■古墳時代終末期(時期④)

竪穴建物2947



- ・竪穴建物の大きさ／長辺 4.62m×短辺 4.39m
- ・竪穴建物の北側にカマドあり
- ・特徴的な出土遺物／カマドから須恵器・製塩土器が出土



須恵器



製塩土器